

第27回結核予防関係婦人団体中央講習会 お言葉



令和5年2月28日（火）

本日、「第27回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思っております。

中央講習会は、3年前に対面でおこなわれた後は、感染拡大防止のために2年続けてオンラインでの開催となりました。そうした中、皆さまは、感染症を含む疾病について学び、正しい情報を人々に伝えてこられました。また、マスクの作成やワクチン接種会場でのお手伝いなどもされました。更には、複十字シール運動に取り組み、カンボジアの結核健診とボランティアの活動も支えています。感染症対策をされながら、できることを工夫して積極的に活動されてきた皆さまの熱意と行動力に、深く敬意を表します。

日本の結核は、多くの人々のご努力により、着実に減少してきました。それでも、一昨年の1年間で11,000人以上が新たに結核を発症し、約1,800人が結核で亡くなっています。新規登録患者には高齢者が多く、20代の新規登録患者に占める外国生まれの人の割合は7割を超えています。また、結核診断の遅れや定期健診受診者の減少も指摘されています。

一方、世界では、世界保健機関（WHO）の推計によると、一昨年に、約1,060万人が結核を発症し、約百六十万人が亡くなりました。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の一つとして掲げられた、2030年までに結核をなくすという目標には、ほど遠い状況にあります。

こうした状況の中、皆さまは今回の講習会で、結核対策、BCG、国際協力や、SDGsについての講演を聴講され、班別討議に参加されます。皆さまが、専門的な内容の理解を一層深められ、それぞれの地域で重ねてきた豊かなご経験を伝え合い、意見交換をされることを通して、これからのご活動がより充実したものになりますことを期待しております。

今後も、婦人会の皆さまとご一緒に、人々の健康を支えるために、更に努めて参りたいと思います。冬から春へと季節の変わり目にあたりますので、どうぞご体調に気をつけておすごしくくださいますように。日本、そして世界の人々の健康を心から願い、開講式に寄せる言葉といたします。